

平成 26 年度「全国学力・学習状況調査」における 茨田中学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成 26 年 4 月 22 日（火）に、3 年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にさせていただきたいと思っております。

1 調査の目的

- （1） 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （2） 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- （3） 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・ 国・公・私立学校の小学校第 6 学年、中学校第 3 学年の原則として全児童生徒
- ・ 茨田中学校では、3 年生 304 名

3 調査内容

（1）教科に関する調査

| 主として「知識」に関する問題 【国語 A・数学 A】 | 主として「活用」に関する問題 【国語 B・数学 B】 |
|---|---|
| ・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり常に活用できるようなっていることが望ましい知識・技能など | ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など |

（2）児童生徒質問紙調査

| 児童生徒質問紙調査 |
|-------------------------------|
| ・ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 |

平成26年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大阪市立茨田中学校

生徒数 304(特支11を含む)

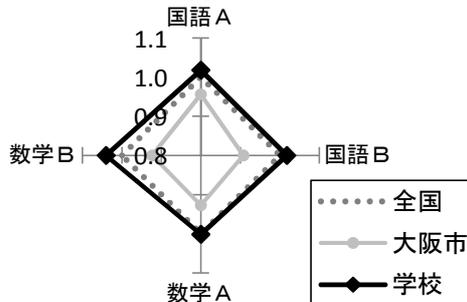
平均正答率 (%)

| | 国語A | 国語B | 数学A | 数学B |
|-----|------|------|------|------|
| 学校 | 80.8 | 51.9 | 67.5 | 62.2 |
| 大阪市 | 75.9 | 46.3 | 62.5 | 55.2 |
| 全国 | 79.4 | 51.0 | 67.4 | 59.8 |

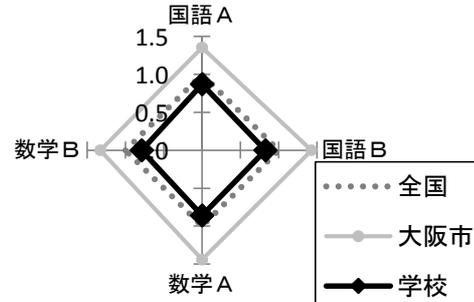
平均無解答率 (%)

| | 国語A | 国語B | 数学A | 数学B |
|-----|-----|-----|-----|------|
| 学校 | 2.7 | 2.9 | 3.7 | 8.6 |
| 大阪市 | 4.2 | 5.0 | 6.2 | 14.5 |
| 全国 | 3.1 | 3.5 | 4.3 | 10.9 |

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



結果の概要

今年度は、国語・数学A・B問題とも全国の平均正答率を0.1～2.4ポイント上回ることができた。また、平均無解答率においても全国の平均率を0.4～2.3ポイント上回ることができた。学校全体として落ち着いた学習環境が育まれており、受験者数も292名で、受検率約97%は高い。生徒質問紙では、規範意識や基本的な生活習慣において、生徒が善悪の判断がしっかりと理解しているという認識を踏まえて、各教科の特性をしっかりと理解させて、日常生活に密接なつながりがあるという認識を気づかせる指導を行う必要がある。特に言語活動の充実や教科内での話し合いやICTの活用などを取り入れながらステップアップを目指す授業づくりを推進していく。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

今年度の取組では、学校力の向上に向けて年間計画に授業研究週間を位置付けて、学び続ける教員サポート事業を通して、全教員による研究授業を充実させて授業力の指導技術の改善につなげることができた。そして相互授業参観を通じて、ベテラン教員から若手教員に至る意見交流会を活性化させることで、お互いの課題を見つけて授業内容の工夫・改善に発展させることができた。また、2年次教員の年3回、教員指導員の指導・助言等も授業力の向上に非常に有益であった。学力調査の結果を踏まえて、各教科の特性をしっかりと理解させて、日常生活に密接なつながりがあるという認識を気づかせる指導を行う必要がある。特に言語活動の充実や教科内での話し合いやICTの活用などを取り入れながらステップアップを目指す授業づくりを推進していく。

自主学習習慣の定着に向けて、学校元気アップ事業との連携で、長期休業中やテスト前に各学年での自主学習会を実施している。今後もさらに充実させて学力の向上に繋げるとともに保護者の協力を得ながら、家庭学習で自学自習ができる教材づくりや点検シート等を活用しながら基本から応用・発展に進展していく教育活動を実践していく。

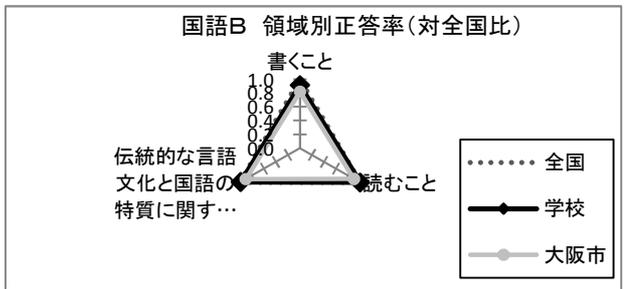
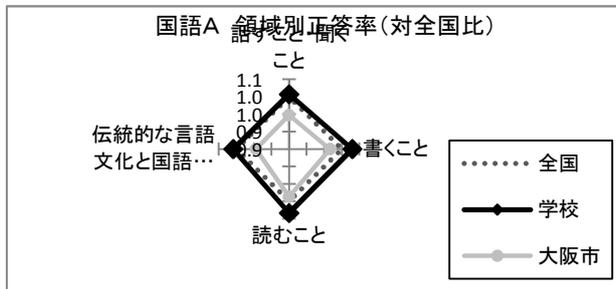
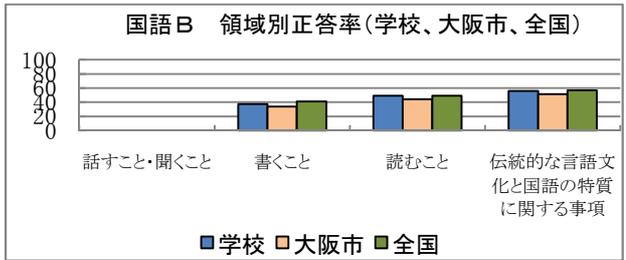
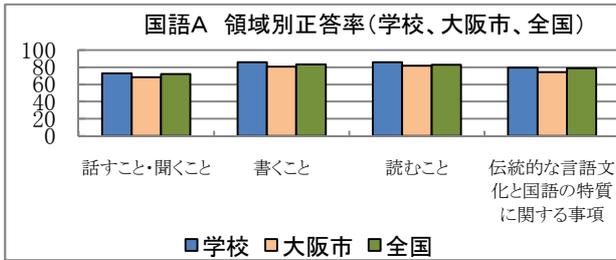
【国語】

結果の概要

国語A・B問題とも大阪市、全国の平均正答率を上回ることができた。特に「書くこと」の領域においては課題がある。国語に関する生徒質問紙の「国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか」の設問においても課題がある。課題解決に向けて、今後辞書の活用を通して、語句の意味を確かめる習慣を身につけさせ、前後の文章のつながりを把握させ、諸問題について発表する機会を設ける必要がある。

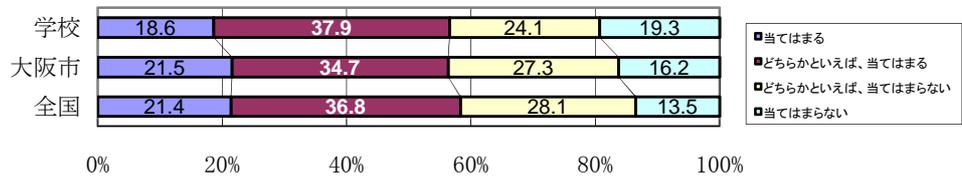
| A 問題 | | 平均正答率(%) | | | |
|------------|----------------------|----------|------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 | |
| 学習指導要領の領域等 | 話すこと・聞くこと | 4 | 72.8 | 68.5 | 72.3 |
| | 書くこと | 6 | 85.9 | 80.6 | 83.4 |
| | 読むこと | 5 | 85.7 | 81.8 | 82.9 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 17 | 79.4 | 74.3 | 78.7 |

| B 問題 | | 平均正答率(%) | | | |
|------------|----------------------|----------|------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 | |
| 学習指導要領の領域等 | 話すこと・聞くこと | 0 | — | — | |
| | 書くこと | 3 | 37.5 | 33.6 | 41.0 |
| | 読むこと | 8 | 49.2 | 44.1 | 49.2 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 4 | 56.1 | 51.3 | 56.8 |

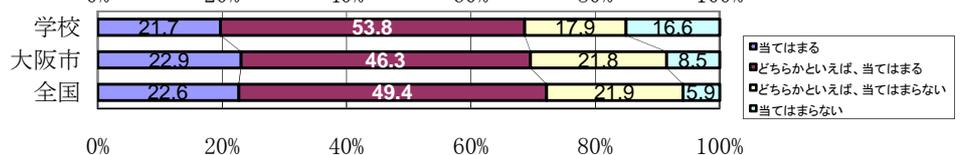


国語に関する「生徒質問紙」

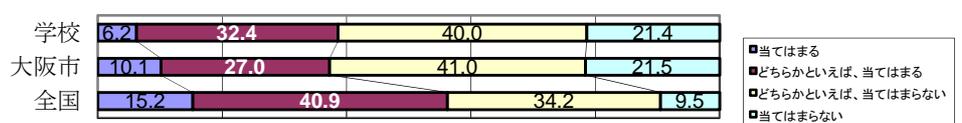
50
国語の勉強は好きですか



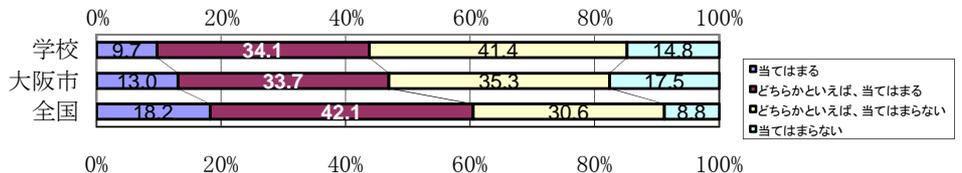
52
国語の授業の内容はよく分かりますか



55
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



57
国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



成果と課題

国語A問題の領域については、4領域とも全国の平均正答率に達しているが、B問題においては、「書くこと・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、全国の正答率に達することができなかった。授業内容も含めて興味・関心を持っている生徒が多く見られるが、今後、思考力・判断力・表現力の育成に向けた学習形態の在り方を見直していく。

今後の取組

各領域の検証をしっかりと把握し、低い結果がある分野においては授業改善の必要性がある。新聞・資料等を積極的に活用し、各問題点について考えさせたり意見を述べさせる指導を推進するとともに書く力を身につけさせていく。また、振り返り学習の徹底化を図り、理解度チェックを日々実施する指導体制を築く。

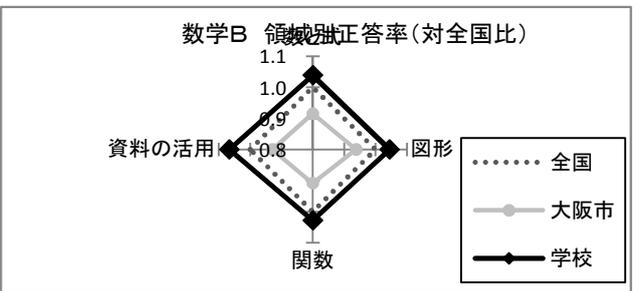
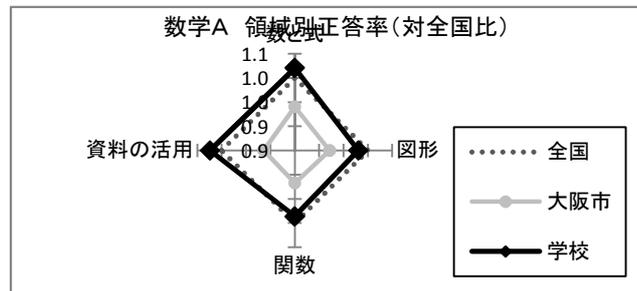
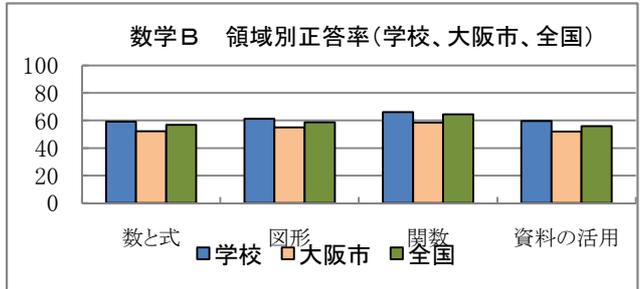
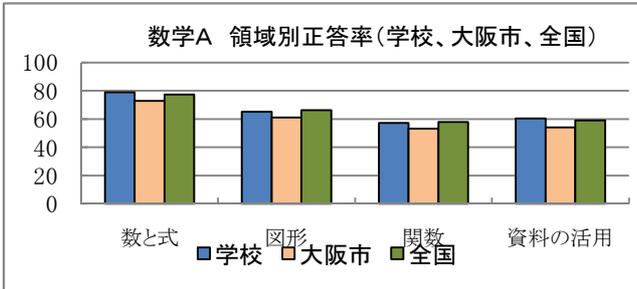
【数学】

結果の概要

数学A問題の領域の図形・関数については、全国平均正答率に0.8~1.3ポイント達することができなかったが、それ以外の領域については、全て全国平均正答率を上回る事ができた。今後、課題解決に向けて基礎・基本の定着を図る授業内容の見直しと普段の生活の中での数学的思考を育ませる方策を考えていく必要がある。

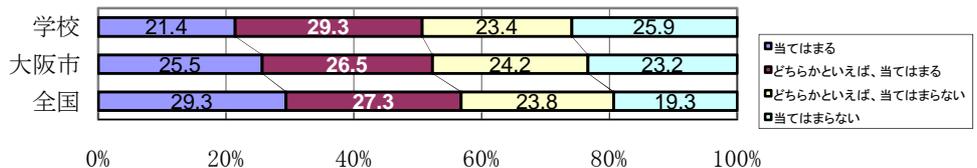
| A 問題 | | 平均正答率(%) | | | |
|------------|-------|----------|------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 | |
| 学習指導要領の領域等 | 数と式 | 12 | 79.0 | 72.8 | 77.4 |
| | 図形 | 12 | 65.1 | 61.2 | 66.4 |
| | 関数 | 8 | 57.2 | 53.2 | 58.0 |
| | 資料の活用 | 4 | 60.5 | 54.0 | 59.1 |

| B 問題 | | 平均正答率(%) | | | |
|------------|-------|----------|------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 | |
| 学習指導要領の領域等 | 数と式 | 3 | 59.1 | 52.1 | 56.9 |
| | 図形 | 5 | 61.2 | 55.0 | 58.6 |
| | 関数 | 5 | 66.2 | 58.5 | 64.4 |
| | 資料の活用 | 2 | 59.6 | 51.9 | 55.9 |

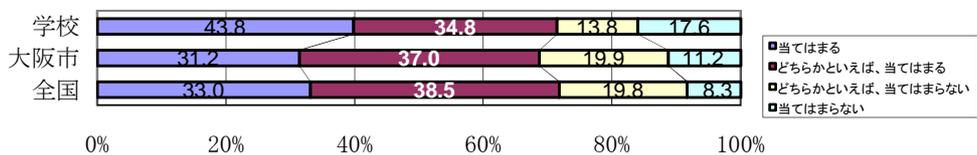


数学に関する「生徒質問紙」

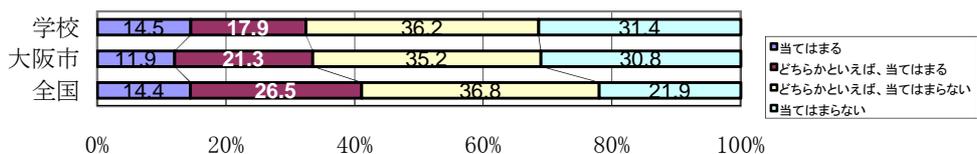
62
数学の勉強は好きですか



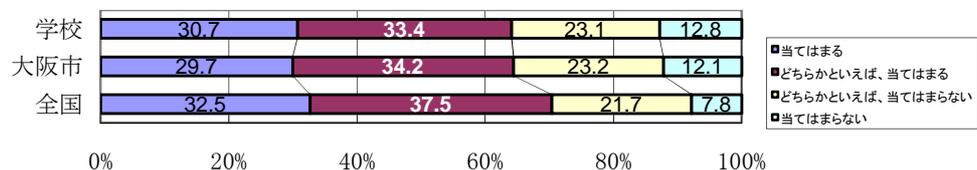
64
数学の授業の内容はよく分かりますか



67
数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



70
数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか



成果と課題

生徒質問紙の「数学の授業の内容はよく分かりますか」の設定では、全国を上回る結果がでており、教員の指導方法をさらに充実させていく。主として知識のA問題の「図形・関数」の領域が、全国に達せず課題がある。今後、「図形」の移動を視覚的に捉えさせる指導をし、「関数」については、日常的な事象の中で、関数の意味を理解できるように指導していく。

今後の取組

基本的な習得の充実を図るために、反復学習といった繰り返し学習に重点を置き、応用・発展につなげていく。また、数学的な見方や考え方を身につける方策として、例えば、図形の学習では個々の創造力を働かせる活動として、視覚教材等を作成し、確かめの学習活動を行っていく必要がある。

学びの充実に向けて(1)

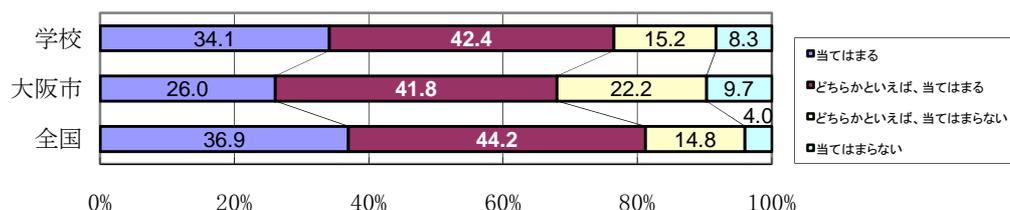
結果の概要

質問事項の「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたりすることができる」について肯定的に回答している生徒の割合が、低い傾向が見られる。それ以外の質問事項については、全国平均値とほぼ同じ値である。

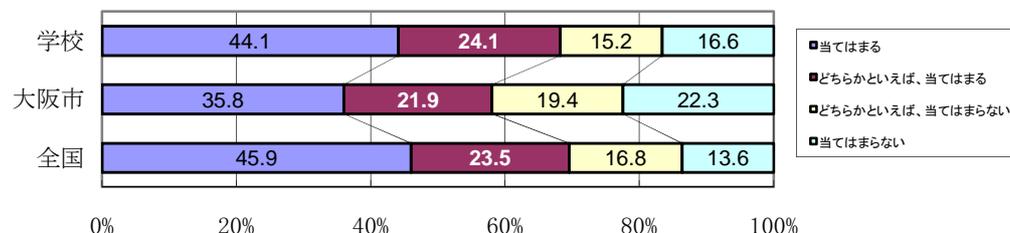
今後、学習活動の中で、自分の考えをしっかりと説明する場やグループでお互いに意見を述べ合う場面等を多く取り入れる授業内容を推進していく活動を実践していく。

| 質問番号 | 質問事項 |
|------|------|
|------|------|

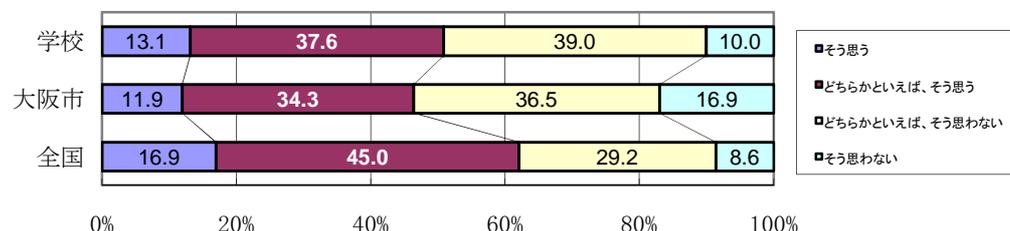
| |
|---|
| 42 |
| 1・2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか |



| |
|----------|
| 53 |
| 読書は好きですか |



| |
|---|
| 48 |
| 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか |



成果と課題

本校の取り組みとして、朝の一斉読書を実践していることで、生徒たちに読書への興味・関心を引き出せて良い傾向に至っている。

今後も言語活動の充実を絶えず念頭に置きながら、全教員の共通理解のもと、継続して指導していく。

今後の取組

教育活動全体を通じて、思考力・判断力そしてプレゼンテーション力を身につける授業内容の工夫・改善をさらに進めていき、読み物や新聞等の活用も視野に入れて、文章表現・文書能力を高める方策を考えていく。教員に対しては、言語活動の充実を図る研修への参加を促進させ、ICT活用も含めた授業力の向上に努めていく。

学びの充実に向けて(2)

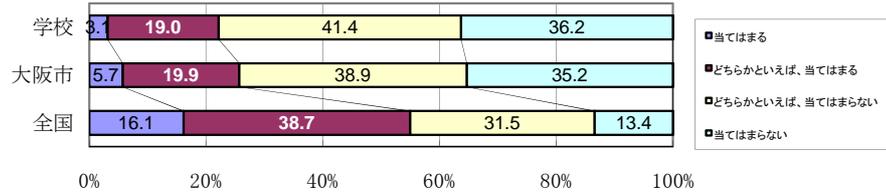
結果の概要

質問事項の「総合的な学習の時間」では、自分の課題を立てて、情報収集と整理をして、発表するなどの学習活動ができた生徒の割合は、低い傾向である。

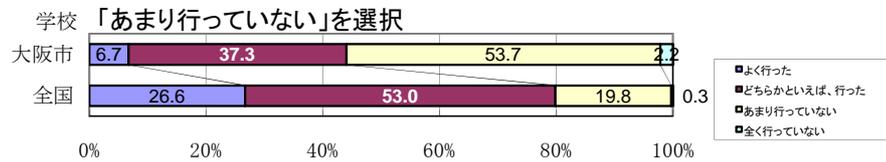
学校質問紙等においても、課題の設定からまとめや言語活動を適切に位置づけているかや調べ学習などの指導ができていない状況が見受けられる。この結果を受けて、あらゆる学習活動の場面で、自ら考え、自ら学び、自ら課題を解決する能力を育む指導を推進する体制を構築していく。

| 質問番号 | 質問事項 |
|------|------|
|------|------|

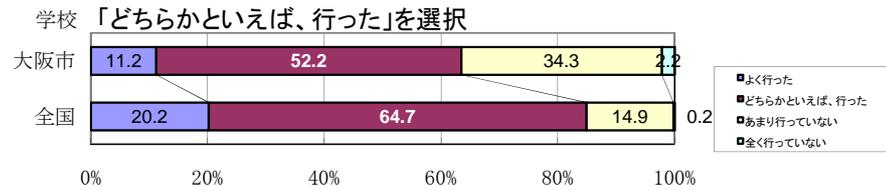
| |
|--|
| 40 |
| 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか |



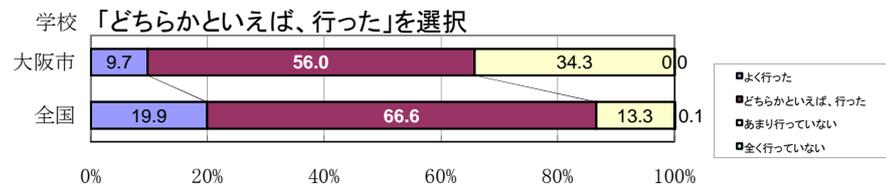
| |
|--|
| 42【学校質問紙】 |
| 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか |



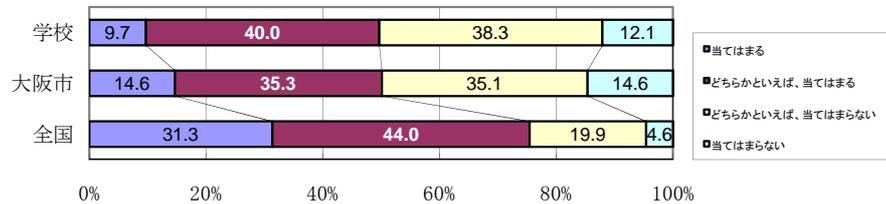
| |
|--------------------------------------|
| 30【学校質問紙】 |
| 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか |



| |
|--------------------------------------|
| 41【学校質問紙】 |
| 自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか |



| |
|--|
| 43 |
| 1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか |



成果と課題

各教科・各領域における指導の目標・ねらいを明確にして、言語活動の充実に向けて、さらに学級討議や話し合い等で意見交流会の頻度を高めていく必要がある。

今後の取組

「総合的な学習の時間」に、日常生活や社会における事象について課題の設定・情報収集・整理と分析・まとめと表現等を生徒たちに意識させる学習活動を行い、実社会で対応できる能力を育成する。

基本的生活習慣

結果の概要

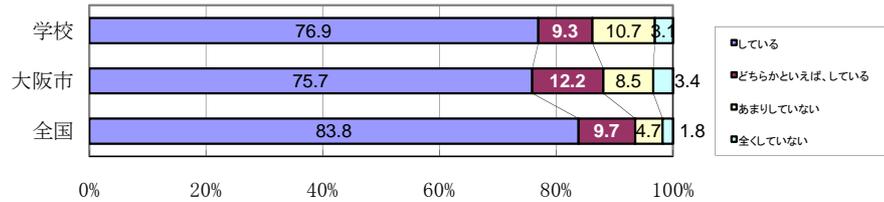
質問事項の「朝食を毎日食べています」について肯定的に回答している生徒の割合は、全国と比較して低い傾向にある。

「携帯電話やスマートフォンの使用時間」については、長い傾向にある。

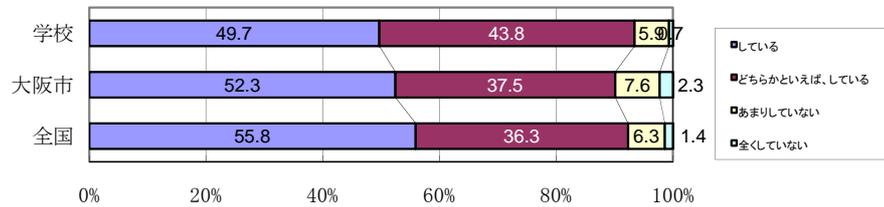
「起床時間」については、規則正しい生活を送っていると判断できる。

| 質問番号 | 質問事項 |
|------|------|
|------|------|

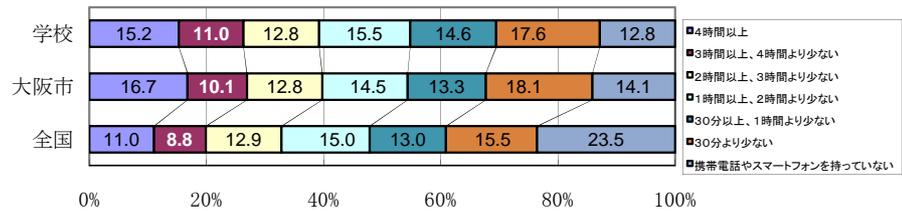
| |
|--------------|
| 1 |
| 朝食を毎日食べていますか |



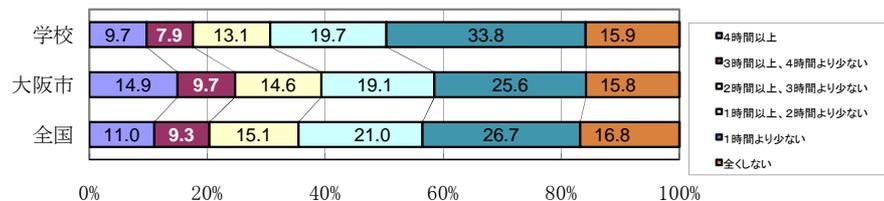
| |
|---------------------|
| 3 |
| 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか |



| |
|--|
| 13 |
| 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームは除く) |



| |
|---|
| 12 |
| 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム等含む)をしますか |



成果と課題

質問事項の「テレビゲーム・コンピュータゲーム等」について肯定的に回答している生徒の割合は、全国と比較して高い傾向にあるが、学校として、基本的生活習慣の定着化をさらに推し進める必要がある。また、朝食やバランスに配慮した食事の大切さについて指導し、食育の推進を図っていく。

今後の取組

学校・家庭で身につけるべく基本的な生活習慣を共有し、健康面・安全面について、保護者の協力のもと、健全な育成に取り組んでいく。

家庭学習

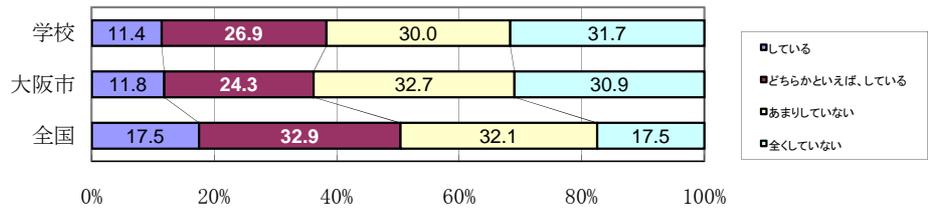
結果の概要

学校以外での1日での学習時間については、全国基準に比べて少し高い割合となっているが、質問事項の「授業の復習」「計画を立てて勉強」についての項目では、肯定的に回答している生徒の割合が低い傾向にある。

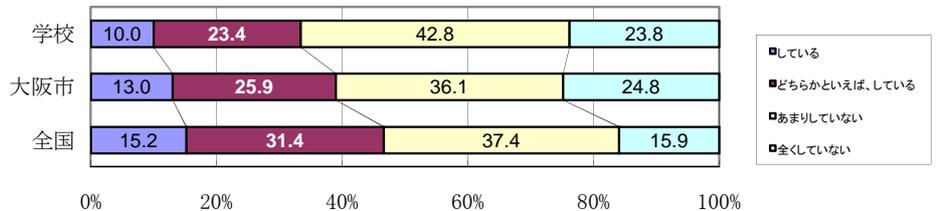
家庭学習での宿題や復習する時間を費やす生徒が少ない状況があるので、「学習教材データ」を活用しながら、自学自習できる学習環境を築いていく必要がある。

| 質問番号 | 質問事項 |
|------|------|
|------|------|

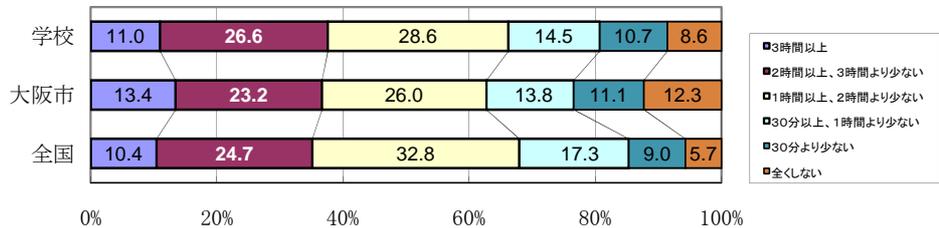
| |
|--------------------|
| 24 |
| 家で、学校の授業の復習をしていますか |



| |
|-----------------------|
| 21 |
| 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか |



| |
|--|
| 14 |
| 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む) |



成果と課題

1日の学習時間は比較的高い推移を示しているが、全くしない生徒が、8.6%と全国に比べて3ポイント高い傾向にあるので、家庭学習での自学自習・復習の重要性を指導していく必要がある。各教科で、理解度チェックや到達度テスト等を活用しながら、個々に対応できる教材づくりを作成して、教員間での情報の共有化を図っていく。

今後の取組

各教科における学習教材データの活用を推進し、予習・復習プリントの活用で、授業・家庭での振り返り学習の定着を図っていく。そして学校元気アップ事業との連携のもと、放課後の自主学習会は定着はしているが、今後さらに発展させ家庭での自主的な学習ができる支援を行っていく。また、教科間の話し合いを充実させるとともに結果の検証を綿密に実施し、学習活動のチェック体制を図る。

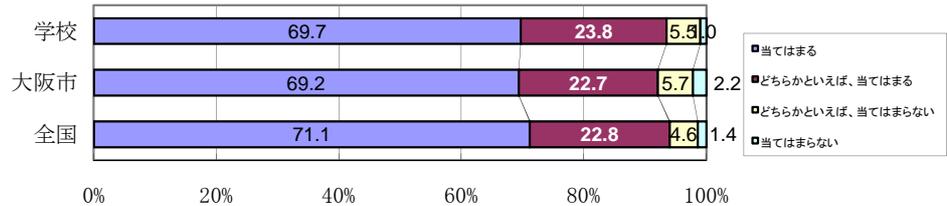
自尊感情・規範意識

結果の概要

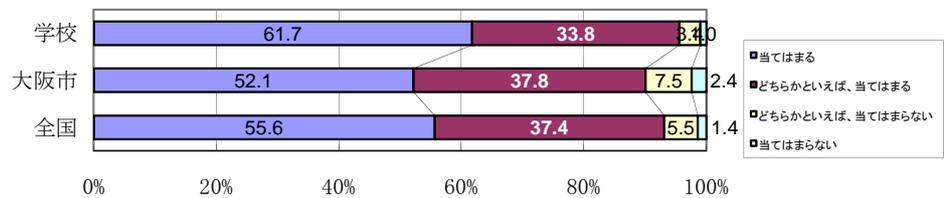
質問事項の各4項目について肯定的な回答をしている生徒の割合は、全国基準並みである。特に「学校の規則」については、全国に比べて6ポイント高い傾向にある。今後も学校生活全般に渡り充実を図り、知・徳・体の調和のとれた人間形成の育成に努めていく。

| 質問番号 | 質問事項 |
|------|------|
|------|------|

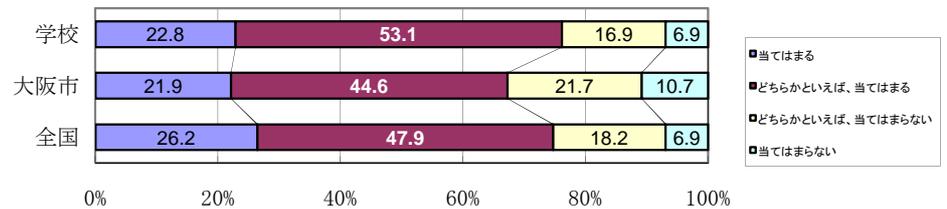
| |
|-------------------------------|
| 4 |
| ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか |



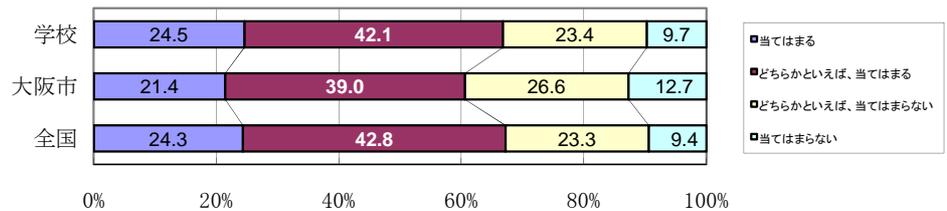
| |
|---------------|
| 34 |
| 学校の規則を守っていますか |



| |
|------------------------------|
| 28 |
| 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか |



| |
|---------------------|
| 6 |
| 自分には、よいところがあると思いますか |



成果と課題

生徒一人ひとりが日々の生活の中で、しっかりと善悪の判断ができていると考える。部活動の活性化の一環として、部活動集会、キャプテン会議や地域の清掃活動を数回実施しており、部活動の在り方学校のルール等の基本的な教育活動を推進している。今後も維持と発展に取り組む。

今後の取組

人権・道徳教育の充実を図り、自尊感情・規範意識・豊かな心を育む心の教育をさらに進める体制を構築していく。

学校・家庭・地域の連携

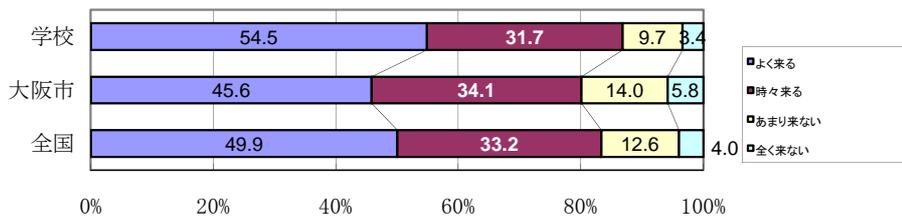
結果の概要

質問事項の「家の人の学校行事への参加」「学校の出来事の会話」について、肯定的な回答をしている生徒の割合は、高い傾向にあるが、「地域や社会への関心」については、かなり低い傾向にあるといえる。

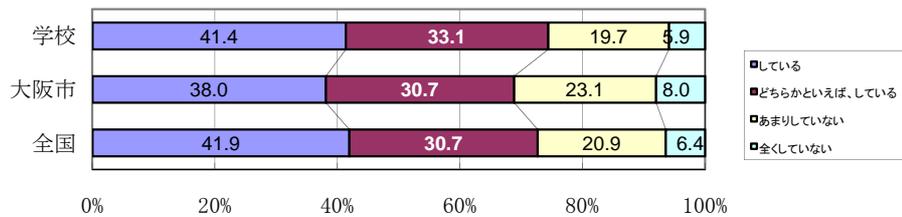
家庭で、ニュースや地域の出来事などを話題にして、地域・社会に関する興味等を育む必要がある。

| 質問番号 | 質問事項 |
|------|------|
|------|------|

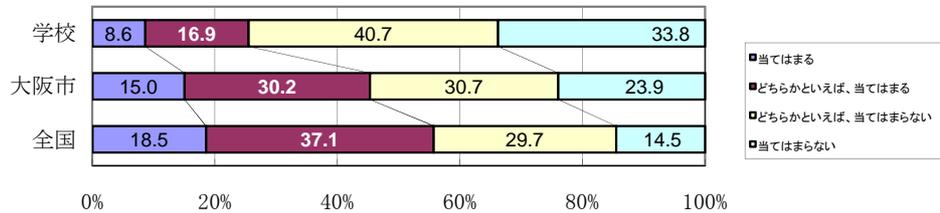
| 20 |
|-----------------------------------|
| 家の人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか |



| 19 |
|-------------------------------|
| 家の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしますか |



| 30 |
|-----------------------------|
| 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか |



成果と課題

学校HPの活用を生かして、生徒たちの様子や学校行事・学年行事など本校の教育活動を配信していくことで、地域や家庭とのつながりを深めていくことができた。また、学校元気アップとの取組の中で、長期休業中や放課後に、図書館開放や自主学習会そして小学校6年生対象の部活動体験等を実施し、小中連携の充実や学習意欲の向上に繋げている。地域での行事等も学校HPに紹介するなど、参加型体験を推進していく必要がある。

今後の取組

地域社会への関心が薄い状況が見られるので、新聞やインターネット等を授業の中に取り入れて、地域から世界に至る情報・話題を取り入れながら情報収集や提供を推進し、周りに目を向けさせる手立てを図っていく。

学校組織の改善

結果の概要

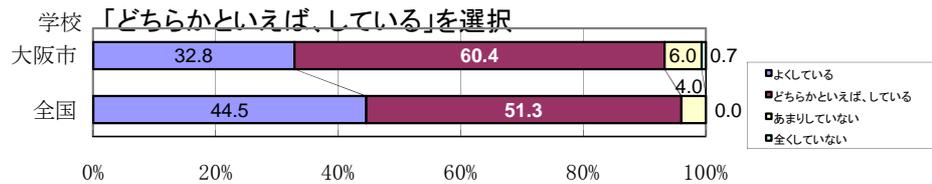
学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいると回答している割合が高い学校については、全ての教科で平均正答率が高い状況にある。

学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で取り組んでいると回答している割合は、全国より低い傾向にある。また、研究授業を伴う校内研修実施回数は、低い傾向である。この結果を踏まえて、学校マネジメント力を発揮し、教育目標の周知徹底と諸問題の課題解決に向けての共通理解のもと協働体制で取り組む必要がある。

| 質問番号 | 質問事項 |
|------|------|
|------|------|

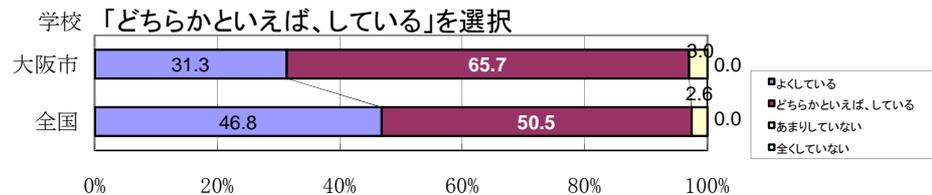
98 【学校質問紙】

学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか



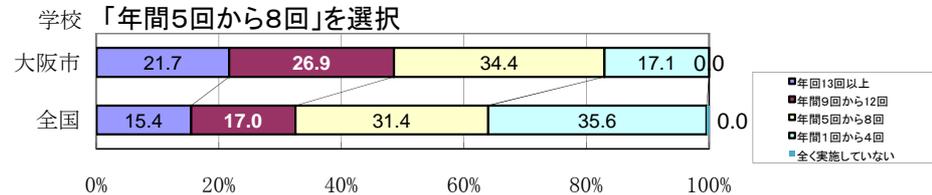
96 【学校質問紙】

学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか



89 【学校質問紙】

授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか



成果と課題

全ての教科で全国の平均正答率を上回ることができたが、さらに学校の教育目標の達成をめざし、学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組み推進していく。

校内の教員研修担当やメンターを中心に、学力向上、授業力向上に向けた校内研修を積極的に行う必要がある。

今後の取組

「全国学力・学習状況調査」等の結果を分析し、これまでの取り組みの成果と課題を明確化し、様々な学校教育活動を見直し、学校力の向上に向けた組織運営を円滑に進めていく。

学び続ける教員サポート事業のもと、全教員の研究授業を実施し、教員相互の授業参観を充実させて指導技術の更なる向上を図っていく。